

エントリーユーザー向けの外部ストロボ“スピードライト EL-10”を発売
高い連続発光性能と充実した基本性能でクリエイティブな撮影をサポート

キヤノンは、「マルチアクセサリシュー」を搭載した「EOS R システム」のミラーレスカメラ用アクセサリとして、エントリーユーザー向けの外部ストロボ“スピードライト EL-10”を 2024 年 6 月 28 日に発売します^{※1}。



スピードライト EL-10



「EOS R7」装着時のイメージ

“スピードライト EL-10”は、高度な通信機能を備えた「マルチアクセサリシュー」を搭載した「EOS R システム」のミラーレスカメラ用外部ストロボです。高い連続発光性能と充実した基本性能により、ワンランク上の写真表現に挑戦するストロボ初心者をはじめとするユーザーのクリエイティブな撮影をサポートします。

■ 高い連続発光性能を実現

最大ガイドナンバー約 40^{※2}の発光量を実現しながら、発光後のチャージ時間は最大約 2.5 秒^{※3}を達成し、待機時間の少ない快適な撮影を実現しています。また、連続フル発光可能回数は、従来機^{※4}の約 1.7 倍となる約 55 回^{※5}を実現し、連続してテンポよく撮影を続けることが可能です。

■ 充実した基本性能でクリエイティブな撮影をサポート

ストロボ光の照射角は、レンズの焦点距離 24-105mm に対応しており、発光部が上・左右に可動するバウンス撮影や「ハイスピードシンクロ」機能など、充実した基本性能を備えています。また、電波通信によるワイヤレスストロボ撮影に対応し、ストロボをカメラから離して好きな位置・角度から発光できるオフカメラ撮影^{※6}や多灯撮影により、クリエイティブな撮影をサポートします。

■ 「EOS R システム」との連携による快適な操作を実現

任意のストロボ設定を C1/C2/C3 の 3 つのカスタム発光モードに登録することができます。さらに、カメラとストロボを事前に連携しておくことで、カメラの撮影モードに連動してストロボの発光モードが自動で切り替わるため、シーンに最適な設定をスピーディーに選択することが可能です。また、「メニューダイレクト」機能の搭載により、ワンクリックでカメラの画面にストロボのメニュー設定を呼び出すことで快適な操作を実現しています。

※1. 対応機種はキヤノン公式サイトをご覧ください。「EOS R6 Mark II」(2022 年 12 月発売)「EOS R8」(2023 年 4 月発売)「EOS R50」(2023 年 3 月発売)で「FE メモリー」機能を使用するには 2024 年 6 月公開のカメラ側ファームウェアの適用が必要です。「EOS R3」(2021 年 11 月発売)「EOS R7」(2022 年 6 月発売)「EOS R10」(2022 年 7 月発売)では、ファームウェアを適用しても「FE メモリー」機能など一部機能はご使用できません。

※2. 発光量を示す値。ガイドナンバーが大きいほど、より遠くの被写体を適正露出で撮影可能。ISO100、照射角105mm 時。

※3. 単 3 形アルカリ乾電池新品使用時。キヤノン試験基準による。

※4. 「430EX III-RT」(2015 年 10 月発売)。

※5. 単 3 形アルカリ乾電池新品使用時。照射角 50-105mm 時。発光から次の発光までのチャージ時間が 3 秒以下の場合。

※6. トランスミッターやセンサー機能を持つストロボが別途必要です。対応製品についてはキヤノン公式 WEB サイトをご確認ください。

製品名	希望小売価格	発売日
スピードライト EL-10	オープン価格	2024年6月28日

-
- 一般の方のお問い合わせ先 : キヤノンお客様相談センター 0570-08-0002
 - EOS ホームページ : canon.jp/eos

〈“スピードライト EL-10”の主な特長〉

1) 高い連続発光性能を実現

- 最大ガイドナンバー約 40 の発光量を実現しながら、発光後のチャージ時間は最大約 2.5 秒を実現し、待機時間の少ない快適な撮影を実現。
- 連続フル発光可能回数は、従来機の約 1.7 倍となる約 55 回を達成し、連続してテンポよく撮影を続けることが可能。
- バッテリーは汎用性の高い単 3 形アルカリ乾電池を採用※。専用バッテリーを必要としないため外出先でも入手しやすく、電池切れの際も素早く撮影の再開が可能。

※ 単 3 形ニッケル水素電池の使用も可能。

2) 充実した基本性能でクリエイティブな撮影をサポート

- ストロボ光の照射角は、レンズの焦点距離 24-105mm に対応。さらに、内蔵のワイドパネル使用時は焦点距離 14mm に対応可能。
- 発光部は、上約 90°、左約 150°、右約 180°の可動範囲を実現。発光部を左右に回転できるため、縦位置撮影時も天井バウンスが可能。
- カメラのストロボ同調速度を超えた高速シャッターでもストロボ撮影ができる「ハイスピードシンクロ」機能を搭載。強い逆光の中でも絞りを開放にできるため、背景をぼかしながら被写体を明るく浮き立たせることが可能。
- 電波通信によるワイヤレスストロボ撮影に対応。ストロボをカメラから離して好きな位置・角度から発光できるオフカメラ撮影や多灯撮影が可能。
- E-TTL 自動調光での多灯撮影に対応。周辺の環境に応じて最適なバランスとなるよう光量が自動設定されるため、簡単に多灯撮影が可能。
- 最小発光量は、従来機の 1/128 から 1/1024 へと微小発光領域を拡大し、夜景を背景にしたポートレート撮影など高感度撮影における繊細な光のコントロールが可能。
- 「FE メモリー」機能では、発光モードを E-TTL 自動調光からマニュアル発光へ切り替えた後も自動調光で記憶した発光量のままマニュアルモードで撮影を継続することができ、自分好みの発光量に微調整が可能。
- スマートフォンアプリ「Camera Connect」では、ワイヤレスストロボ設定、リリース、撮影画像の確認が可能。セッティングしたカメラやストロボ本体に触れることなく手元のスマートフォンから操作・設定が可能。



E-TTL 自動調整による多灯撮影



多灯撮影の様子

3) 「EOS R システム」との連携による快適な操作を実現

- 任意のストロボ設定を C1/C2/C3 の 3 つのカスタム発光モードに登録が可能。さらに、カメラとストロボを事前に連携しておくことで、カメラの撮影モードに連動してストロボの発光モードが自動で切り替わるため、シーンに最適な設定をスピーディーに選択することが可能。
- また、「メニューダイレクト」機能の搭載により、ワンクリックでカメラの画面にストロボのメニュー設定を呼び出すことで快適な操作を実現。



カメラの撮影モード
[C1/C2/C3] を選択

ストロボの発光モード
[C1/C2/C3] に自動変更

〈製品仕様について〉

製品仕様の詳細はキヤノンホームページをご参照ください。

<https://personal.canon.jp/product/camera/accessory/speedlite-el10>